

1985 年大会記録

国際

◇オーストラリア・ゲームズ=フリースタイル(1月28日、オーストラリア・メルボル

ン)

▼48kg 級 矢作章 (ユナイテッドステイール) = 優勝、▼52kg 級 文田敏郎 (山梨・峡北高教) = 優勝、▼57kg 級 鈴木康文 (自衛隊) = 優勝、▼62kg 級 橋浦晋 (鳥取・鳥取工高教) = 2 位、▼68kg 級 坂口秀春 (自衛隊) = 2 位、▼74kg 級 佐川正吉 (自衛隊) = 優勝、▼82kg 級 岸本茂範 (岸本牧場) = 優勝

◇ロジャー・クーロン杯国際大会(2月9日、フランス・クレルモンフェラン)

《女子》▼52kg 級 大島和子 (東京・城西高教) = 2 敗

◇ワールドカップ=フリースタイル(3月30~31日、米国・トレド)

3 位 (3 勝 2 敗)

1 回戦 日本● [1 - 9] ○ソ連

2 回戦 日本● [2 - 8] ○米国

3 回戦 日本○ [7 - 3] ●キューバ

4 回戦 日本○ [6 - 4] ●カナダ

5 回戦 日本○ [9 - 1] ●エジプト

《故人成績》▼48kg 級 大黒智明 (大東大) = 3 位、▼52kg 級 佐藤満 (日体大研) = 優勝、▼57kg 級 角地山豊 (日大) = 3 位、▼62kg 級 赤石光生 (日大) = 2 位、▼68kg 級 原喜彦 (日体大研) = 4 位、▼74kg 級 樋口直己 (奈良県教委) = 5 位、▼82kg 級 安田紀久雄 (山梨県教委) = 3 位、▼90kg 級 保坂竹道 (自衛隊) = 4 位、▼100kg 級 本田多聞 (日大) = 3 位、▼100kg 級以上=派遣なし

◇西ドイツ国際大会=グレコローマン(3月30~31日、アッシャムヘンブルグ)

▼48kg 級 斉藤育造 (和歌山県教委) = 2 位、▼52kg 級 河本勲 (自衛隊) = 4 位、▼57kg 級 我妻雄比古 (日体大) = 6 位、▼62kg 級 出口泰三 (国士舘大) = 二失、▼68kg 級 大久保康裕 (自衛隊) = 二失、▼68kg 級 三宅靖志 () = 二失、▼74kg 級 谷一郎 (群馬・沼田高教) = 6 位、▼82kg 級 向井孝博 (自衛隊) = 二失、▼90kg 級 東出徹 (奈良橿原体育館) = 二棄

◇スーパーチャンピオンカップ（5月5～6日、東京・代々木競技場第2体育館）

《フリースタイル》▼48kg級 小林孝至（日大）＝優勝、▼52kg級 佐藤満（日体大大学院）＝優勝、▼57kg級 角地山豊（日大）＝3位、▼62kg級 赤石光生（日大）＝2位、▼68kg級 原喜彦（日体大）＝3位、▼74kg級 樋口直己（奈良県体協）＝3位、▼82kg級 安田紀久雄（山梨県教委）＝3位、▼90kg級 太田章（早大教）＝2位、▼100kg級 本田多聞（日大）＝3位、▼130kg級＝出場なし

《グレコローマン》▼48kg級 斉藤育造（和歌山県教委）＝2位、▼52kg級 河本勲（自衛隊）＝優勝、▼57kg級 我妻雄比古（日体大）＝3位、▼62kg級 出口泰三（国士舘大）＝3位、▼68kg級 大久保康裕（自衛隊）＝3位、▼74kg級 谷一郎（群馬・太田工高教）＝3位、▼82kg級 向井孝博（自衛隊）＝2位、▼90kg級 東出徹（奈良橿原体育館）＝3位、▼100kg級 福辺雅彦（奈良教育センター）＝3位、▼130kg級 安藤正哉（安藤コンクリート）＝3位

◇コンコード国際大会＝グレコローマン（5月25～26日、米国・コンコード）

▼48kg級 斉藤育造（和歌山県教委）＝2位、大橋正教（山梨県協会）＝3位、▼52kg級 藤波俊一（日体大）＝優勝、▼57kg級 黒飛健（自衛隊）＝3位、▼62kg級 西口茂樹（日体大）＝6位、▼68kg級 湯浅邦茂（山梨県協会）＝二失、▼74kg級 伊藤広道（自衛隊）＝5位、▼82kg級 屋比久保（国士舘大）、▼90kg級 東出徹（奈良県協会）、▼100kg級 近藤務（自衛隊）

◇世界エスポアール選手権（7月、米国・コロラドスプリングズ）

《フリースタイル》▼48kg級 喜多龍昭（日体大）＝6位、▼52kg級 山下浩（日体大）＝二失、▼57kg級 森下敏清（日体大）＝4位、▼62kg級 安達巧（日体大）＝三失、▼68kg級 田中秀人（日体大）＝二失、▼74kg級 高橋信明（専大）＝二失、▼82kg級 伊藤敦（日体大）＝4位、▼90kg級 豎山保文（自衛隊）＝6位、▼100kg級 草野敦（国士舘大）＝二失、▼130kg級 本間和吉（専大）＝6位

《グレコローマン》▼48kg級 大橋正徳教（山梨学院大）＝4位、▼52kg級 丹治尚弘（国士舘大）＝二失、▼57kg級 渡口彦康（自衛隊）＝二失、▼62kg級 足立勝司（山梨学院大）＝6位、▼68kg級 三宅靖志（東海大）＝2位、▼74kg級 関川清人（日大）＝二失、▼82kg級 小林希（日体大）＝二失、▼90kg級 武藤光一（日体大）＝二失、▼100kg級 花城安明（自衛隊）＝二失、▼130kg級 奈良英則（日大）＝二失

◇世界選手権＝グレコローマン（8月8～11日、ノルウェー・コルボトン）

▼48kg級 斉藤育造（和歌山県教委）＝一棄、▼52kg級 宮原厚次（自衛隊）＝4位、

▼57kg級 三宅正徳（岐阜・岐阜養護学教）＝5位、▼62kg級 芦野茂美（日体大）＝二失、▼68kg級 作田勝広（自衛隊）＝三失、▼74kg級 伊藤広道（自衛隊）＝二失、▼82kg級 向井孝博（自衛隊）＝9位、▼90kg級 森山泰年（自衛隊）＝四失、▼100kg級 藤森安一（警視庁）＝二失、▼130kg級 出口一也（国士舘大）＝二失

◇アジア・ジュニア選手権（8月19～21日、東京・代々木競技場第2体育館）

《フリースタイル》▼48kg級 笹山秀雄（青森・光星学院高）＝2位、▼52kg級 金浜良（日大）＝優勝、▼56kg級 佐々木一郎（茨城・霞ヶ浦高）＝2位、▼60kg級 伊藤琢巳（中大）＝優勝、▼65kg級 木村孝弘（茨城・土浦日大高）＝4位、▼70kg級 高野謙二（茨城・土浦日大高）＝4位、▼75kg級 岡部政浩（東京・東京工高）＝3位、▼81kg級 本田大（茨城・土浦日大高）＝2位、▼87kg級 仁田昭彦（群馬・館林高）＝4位、▼87kg以上級 篠木英治（群馬・館林高）＝5位

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 関昌弘（群馬・館林高）＝3位、▼52kg級 中村和正（神奈川・湘南通信制）＝3位、▼56kg級 榎田貢（東洋大）＝3位、▼60kg級 小谷敬一（群馬・関東学園高）＝2位、▼65kg級 小泉徹（中大）＝3位、▼70kg級 寺沢淳（茨城・霞ヶ浦高）＝3位、▼75kg級 音田佳孝（鳥取・倉吉工高）＝3位、▼81kg級 富田謙二（茨城・霞ヶ浦高）＝3位、▼87kg級 林原祐二（鳥取・赤碕高）＝3位、▼87kg以上級 関沢一人（茨城・霞ヶ浦）＝2位

◇世界選手権＝フリースタイル（10月10～13日、ハンガリー・ブダペスト）

▼48kg級 入江隆（自衛隊）＝二失、▼52kg級 佐藤満（日体大大学院）＝3位、▼57kg級 朝倉利夫（国士大教）＝4位、▼62kg級 栄和人（奈良県教委）＝5位、▼68kg級 五位塚悟（山梨・韮崎工高教）＝二失、▼74kg級 平山宣伸（日体大）＝二失、▼82kg級 菊地隆（和歌山県教委）＝三失、▼90kg級 保坂竹道（自衛隊）＝三失、▼100kg級 本田多聞（日大）＝二失、▼130kg級 大川浩一（警視庁）＝7位

◇ワールドカップ＝グレコローマン（11月8～9日、スウェーデン・ルンド）

5位（4敗）

1回戦 日本● [0-10] ○ソ連

2回戦 日本● [1-9] ○スウェーデン

3回戦 日本● [1-9] ○キューバ

4回戦 日本● [2-8] ○米国

《個人順位》▼48kg級 大橋正教（山梨学院大）＝4位、▼52kg級 大川秀和（奈良県教育センター）＝2位、▼57kg級 中留俊司（日体大）＝5位、▼62kg級 芦野茂美（日

体大) = 5位、▼68kg級 中島光正(とりせん) = 5位、▼74kg級 伊藤広道(自衛隊) = 5位、▼82kg級 屋比久保(国士舘大) = 5位、▼90kg級 東出徹(奈良橿原体育館) = 4位、▼100kg級=派遣なし、▼130kg級=派遣なし

国内

◇全国高校選抜大会(3月30~31日、新潟・新潟市体育館)

《学校対抗戦》[1] 青森・光星学院高(5年連続6度目)、[2] 茨城・霞ヶ浦、[3] 群馬・館林、鹿児島・鹿児島商工

《個人戦優勝者》▼48kg級 笹山秀雄(青森・光星学院)、▼52kg級 花田秀実(青森・光星学院)、▼56kg級 佐々木一郎(茨城・霞ヶ浦)、▼60kg級 下沢和也(青森・光星学院)、▼65kg級 山口公大(青森・光星学院)、▼70kg級 得本啓次(福岡・築上西)、▼75kg級 田崎光之(茨城・霞ヶ浦)、▼75kg以上級 間山泰範(北海道・岩見沢農)

◇西日本学生春季新人戦=フリースタイル(5月3日、大阪・桃山学院大)

《優勝者》▼48kg級 屋敷宗寿(同志社大)、▼52kg級 西川知志(同志社大)、▼57kg級 土直博(鹿屋体育大)、▼62kg級 海老原寛一(近大)、▼68kg級 梅原守(同志社大)、▼74kg級 浅井徹(近大)、▼82kg級 竹中邦仁(近大)、▼90kg級 永井孝治(近大)

※フリースタイルのみ

◇東日本学生リーグ戦(5月14~16・23日、東京・駒沢体育館)

《順位》[1] 日体大(7年連続9度目)、[2] 日大
(A組) [1] 日体大、[2] 国士大、[3] 東海大、[4] 大東大、[5] 中大、[6] 法大
(B組) [1] 日大、[2] 専大、[3] 山梨学院大、[4] 東洋大、[5] 明大、[6] 拓大

◇全日本社会人選手権(5月25~26日、神奈川・横浜消防訓練センター)

《団体戦優勝チーム》▼官公庁 自衛隊、▼実業団 ユナイテッドスティール、▼クラブ 奈良クラブ

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 矢作章(ユナイテッド・スティール)、▼52kg級 藤川健治(自衛隊)、▼57kg級 鈴木康一(自衛隊)、▼62kg級 栄和人(奈良ク)、▼68kg級 五位塚悟(山梨・韮崎工高教)、▼74kg級 佐川正吉(自衛隊)、▼82kg級 菊地隆

(和歌山県教委)、▼90kg 級 対馬正敏(自衛隊)、▼100kg 級 保坂竹道(自衛隊)、▼130kg 級 大川浩一(警視庁)

《グレコローマン優勝者》▼48kg 級 蝦名康一(自衛隊)、▼52kg 級 一色啓雅(和歌山ク)、▼57kg 級 大城利幸(自衛隊)、▼62kg 級 栄和人(奈良ク)、▼68kg 級 大久保康裕(自衛隊)、▼74kg 級 中島則行(長野ク)、▼82kg 級 堅立保文(自衛隊)、▼90kg 級 森山泰年(自衛隊)、▼100kg 級 藤森安一(警視庁)、▼130kg 級 大川浩一(警視庁)

◇西日本学生選手権(5月24~26日、大阪・大阪府立体育会館別館)

《フリースタイル優勝者》▼48kg 級 藤栗原亮(南九州大)、▼52kg 級 西川史人(同志社大)、▼57kg 級 松井信賢(福岡大)、▼62kg 級 大河内幸保(福岡大)、▼68kg 級 城崎公胤(同志社大)、▼74kg 級 恒川寿生(同志社大)、▼82kg 級 竹中邦仁(近大)、▼90kg 級 笹部文男(福岡大)

《グレコローマン優勝者》▼48kg 級 是永順次(福岡大)、▼52kg 級 西川史人(同志社大)、▼57kg 級 仮屋広和(徳山大)、▼62kg 級 福川敦(桃山学院大)、▼68kg 級 糸川長武(同志社大)、▼74kg 級 恒川寿生(同志社大)、▼82kg 級 竹中邦仁(近大)、▼90kg 級 杉田直樹(近大)

◇世界エスポアール選手権代表選考会(6月9~10日、東京・青少年総合センター)

《フリースタイル優勝者》▼48kg 級 喜多龍昭(日体大)、▼52kg 級 山下浩(日体大)、▼57kg 級 森下敏清(日体大)、▼62kg 級 安達巧(日体大)、▼68kg 級 田中秀人(日体大)、▼74kg 級 高橋信明(専大)、▼82kg 級 伊藤敦(日体大)、▼90kg 級 堅山保文(自衛隊)、▼100kg 級 草野敦(国士舘大)、▼130kg 級 本間和吉(専大)

《グレコローマン優勝者》▼48kg 級 大橋正徳教(山梨学院大)、▼52kg 級 丹治尚弘(国士舘大)、▼57kg 級 渡口彦康(自衛隊)、▼62kg 級 足立勝司(山梨学院大)、▼68kg 級 三宅靖志(東海大)、▼74kg 級 関川清人(日大)、▼82kg 級 小林希(日体大)、▼90kg 級 武藤光一(日体大)、▼100kg 級 花城安明(自衛隊)、▼130kg 級 奈良英則(日大)

◇東日本学生春季新人戦(6月27~29日、東京・駒沢体育館)

《フリースタイル優勝者》▼48kg 級 猪狩清一(法大)、▼52kg 級 崎口修二(国士舘大)、▼57kg 級 牛込誠一(東海大)、▼62kg 級 川村憲保(日大)、▼68kg 級 大谷睦義(大東大)、▼74kg 級 下玉利太(日大)、▼82kg 級 高木博章(専大)、▼90kg 級 高

橋重則（東洋大）、▼90kg 以上級 石橋浩一（中大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg 級 猪狩清一（法大）、▼52kg 級 大竹泰志（拓大）、▼57kg 級 小林輝雄（明大）、▼62kg 級 木村好男（日体大）、▼68kg 級 吉田泰仁（中大）、▼74kg 級 東出昭（日体大）、▼82kg 級 池田伸次（国士舘大）、▼90kg 級 高橋重則（東洋大）、▼90kg 以上級 石橋浩一（中大）

◇西日本学生春季リーグ戦（6月28～30日、大阪・臨海スポーツセンター）

《順位》[1] 同志社大（2季連続7度目）、[2] 近大、[3] 徳山大、[4] 福岡大、[5] 桃山学院大、[6] 関大

◇全日本選手権（6月28～30日、山梨・山梨学院大）

《フリースタイル優勝者》▼48kg 級 入江隆（自衛隊）、▼52kg 級 佐藤満（日体大大学院）、▼57kg 級 朝倉利夫（国士大教）、▼62kg 級 栄和人（奈良県教委）、▼68kg 級 五位塚悟（山梨・葺崎工高教）、▼74kg 級 平山宣伸（日体大）、▼82kg 級 菊地隆（和歌山県教委）、▼90kg 級 保坂竹道（自衛隊）、▼100kg 級 本田多聞（日大）、▼100kg 級以上 大川浩一（警視庁）

《グレコローマン優勝者》▼48kg 級 斉藤育造（和歌山県教委）、▼52kg 級 宮原厚次（自衛隊）、▼57kg 級 三宅正徳（岐阜・岐阜養護学教）、▼62kg 級 芦野茂美（日体大）、▼68kg 級 作田勝広（自衛隊）、▼74kg 級 伊藤広道（自衛隊）、▼82kg 級 向井孝博（自衛隊）、▼90kg 級 森山泰年（自衛隊）、▼100kg 級 藤森安一（警視庁）、▼100kg 級以上 秋山安成（自衛隊）

◇アジア・ジュニア選手権代表選考会（7月10～11日、東京・青少年総合センター）

《フリースタイル優勝者》▼48kg 級 山下忍（茨城・霞ヶ浦高）、▼52kg 級 金浜良（日大）、▼56kg 級 佐々木一郎（茨城・霞ヶ浦高）、▼60kg 級 伊藤琢巳（中大）、▼65kg 級 木村孝弘（茨城・土浦日大高）、▼70kg 級 高野謙二（茨城・土浦日大高）、▼75kg 級 岡部政浩（東京・東京工高）、▼81kg 級 本田大（茨城・土浦日大高）、▼87kg 級 仁田昭彦（群馬・館林高）、▼87kg 以上級 篠木英治（群馬・館林高）

《グレコローマン優勝者》▼48kg 級 関昌弘（群馬・館林高）、▼52kg 級 中村和正（神奈川・湘南通信制）、▼56kg 級 榎田貢（東洋大）、▼60kg 級 小谷敬一（群馬・関東学園高）、▼65kg 級 小泉徹（中大）、▼70kg 級 寺沢淳（茨城・霞ヶ浦高）、▼75kg 級 音田佳孝（鳥取・倉吉工高）、▼81kg 級 富田謙二（茨城・霞ヶ浦高）、▼87kg 級 林原祐二（鳥取・赤碓高）、▼87kg 以上級

◇インターハイ（8月2～5日、石川・志賀町総合体育館）

《学校対抗戦》[1] 青森・光星学院（4年連続6度目）、[2] 茨城・霞ヶ浦、[3] 岩手・宮古水産、埼玉・埼玉栄

《個人戦優勝者》▼48kg級 笹山秀雄（青森・光星学院）、▼52kg級 花田秀実（青森・光星学院）、▼56kg級 兜森衛（青森・光星学院）、▼60kg級 下沢和也（青森・光星学院）、▼65kg級 木村孝弘（茨城・土浦日大）、▼70kg級 小坂明（青森・光星学院）、▼75kg級 田崎光之（茨城・霞ヶ浦）、▼75kg以上級 久米田雅勝（青森・光星学院）

◇全国高校生グレコローマン選手権（8月23日、東京・青少年総合センター）

《優勝者》▼48kg級 笹山秀雄（青森・光星学院）、▼52kg級 花田秀実（青森・光星学院）、▼56kg級 中村吉信（茨城・土浦日大）、▼60kg級 山田琢也（京都・宇治）、▼65kg級 山口公大（青森・光星学院）、▼70kg級 飯沼義仁（茨城・霞ヶ浦）、▼75kg以上級 田崎一人（茨城・霞ヶ浦）

◇全日本学生選手権（8月28～31日、東京・駒沢体育館）

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 沖山功（日体大）、▼52kg級 上島一敏（国士舘大）、▼57kg級 森下敏清（日体大）、▼62kg級 井村陽三（日体大）、▼68kg級 赤石光生（日大）、▼74kg級 平山宣伸（日体大）、▼82kg級 赤石明雄（国士舘大）、▼90kg級 和田正（専大）、▼100kg級 本田多聞（日大）、▼130kg級 本間和志（専大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 大橋正教（山梨学院大）、▼52kg級 藤波俊一（日体大）、▼57kg級 我妻雄比古（日体大）、▼62kg級 芦野茂美（日体大）、▼68kg級 原喜彦（日体大）、▼74kg級 平山宣伸（日体大）、▼82kg級 赤石明雄（国士舘大）、▼90kg級 和田正（専大）、▼100kg級 本田多聞（日大）、▼130kg級 浅井功（日体大）

◇西日本学生新人戦（9月15～16日、大阪・桃山学院大）

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 中島正治（桃山学院大）、▼52kg級 波藤正二（南九州大）、▼57kg級 市川光徳（桃山学院大）、▼62kg級 上月英明（同志社大）、▼68kg級 内山一栄（同志社大）、▼74kg級 関保則（南九州大）、▼82kg級 浅井徹（近大）、▼90kg級 竹中邦仁（近大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 中島正治（桃山学院大）、▼52kg級 島崎豊（近大）、▼57kg級 市川光徳（桃山学院大）、▼62kg級 海老原寛一（近大）、▼68kg級 内山一栄（同志社大）、▼74kg級 梅原守（同志社大）、▼82kg級 竹中邦人（近大）、▼90kg級

級 芳村昌秀（同志社大）

◇全日本学生王座決定戦（9月27～28日、東京・駒沢体育館）＝決勝成績

日体大○ [6-3] ●日大

※日体大は8年連続9度目の優勝

◇東日本学生グレコローマン選手権

◇国体（10月21～24日、島根・赤碕町農業者TC）

《成年フリースタイル優勝者》▼48kg級 沖山功（茨城・日体大）、▼52kg級 清水清人（宮崎・日南高教）、▼57kg級 朝倉利夫（東京・国士舘大教）、▼62kg級 栄和人（奈良・県教委）、▼68kg級 赤石光生（青森・日大）、▼74kg級 平山宣伸（岡山・日体大）、▼82kg級 菊地隆（和歌山・県教育庁）、▼90kg級 有本良好（和歌山・笠田高教）、▼100kg級 本田多聞（茨城・日大）、▼130kg級 森康哲（徳島・山瀬農協）

《成年グレコローマン優勝者》▼48kg級 齊藤育造（和歌山・県教育庁）、▼52kg級 藤波俊一（三重・日体大）、▼57kg級 三宅正徳（岐阜・大垣養護学教）、▼62kg級 長内清一（青森・三八教育事務所）、▼68kg級 森巧（徳島・国士舘大）、▼74kg級 谷一郎（群馬・沼田高教）、▼82kg級 向井孝博（埼玉・自衛隊）、▼90kg級 清水輝夫（群馬・スポーツ振興事業団）、▼100kg級 藤田芳弘（和歌山・穴吹高教）、▼130kg級 安藤正哉（岐阜・安藤コンクリート）

《少年フリースタイル優勝者》▼48kg級 笹山秀雄（青森・光星学院）、▼52kg級 花田秀実（青森・光星学院）、▼56kg級 兜森衛（青森・光星学院）、▼60kg級 下沢和也（青森・光星学院）、▼65kg級 木村孝弘（茨城・土浦日大）、▼70kg級 小坂明（青森・光星学院）、▼75kg級 星山親弘（北海道・岩見沢農）、▼81kg級 岡部政弘（東京・東京工）、▼87kg級 尾崎幸雄（千葉・松戸南）、▼87kg以上級 間山泰範（北海道・岩見沢農）

《少年グレコローマン優勝者》▼48kg級 水口康長（三重・松阪工）、▼52kg級 池田敏幸（鳥取・倉吉工）、▼56kg級 藤岡道三（奈良・添上）、▼60kg級 山田琢也（京都・宇治）、▼65kg級 石川宏明（埼玉・埼玉栄）、▼70kg級 飯沼義仁（茨城・霞ヶ浦）、▼75kg級 得本啓次（福岡・築上西）、▼81kg級 本田大（茨城・土浦日大）、▼87kg級 関沢一人（茨城・霞ヶ浦）、▼87kg以上級 神子沢健二（青森・光星学院）

◇東日本学生秋季新人戦（10月30日～11月2日、東京・駒沢体育館）

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 東野勝（大東大）、▼52kg級 金浜良（日大）、▼57kg級 近浦淳二（日大）、▼62kg級 安達巧（日体大）、▼68kg級 川原一昭（日体大）、▼74kg級 関川清人（日大）、▼82kg級 角崎朋博（日体大）、▼90kg級 高木博章（専大）、▼90kg以上級 奈良英則（日大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 平野正春（拓大）、▼52kg級 金浜良（日大）、▼57kg級 近浦淳二（日大）、▼62kg級 倉館健（日大）、▼68kg級 吉田健（日体大）、▼74kg級 高橋信明（専大）、▼82kg級 高木博幸（専大）、▼90kg級 池田伸次（国士館大）、▼90kg以上級 出口一也（国士館大）

◇西日本学生秋季リーグ戦（11月22～24日、大阪・臨海スポーツセンター）

《順位》[1] 同志社大（3季連続8度目）、[2] 徳山大、[3] 桃山学院大、[4] 福岡大、[5] 近大、[6] 名商大

◇全日本大学選手権（11月30日～12月1日、山梨・高根町民体育館）

《優勝者》▼48kg級 大橋正教（山梨学院大）、▼52kg級 山下浩（日体大）、▼57kg級 角地山豊（日大）、▼62kg級 西慎太郎（日体大）、▼68kg級 赤石光生（日大）、▼74kg級 平山宣伸（日体大）、▼82kg級 赤石明雄（国士館大）、▼90kg級 伊藤敦（日体大）、▼100kg級 本田多聞（日大）、▼100kg級以上 浅井功（日体大）

《大学対抗得点》[1] 日体大（3年ぶり8度目）、[2] 国士館大、[3] 日大

◇全国社会人オープン選手権（11月23～24日、神奈川・横浜市消防訓練センター）

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 矢作章（ユナイテッドスティール）、▼52kg級 大塚隆弘（ユナイテッドスティール）、▼57kg級 文田敏郎（山梨クラブ）、▼62kg級 五十嵐淳一（自衛隊）、▼68kg級 湯田善吉（自衛隊）、▼74kg級 杉野浩吉（自衛隊）、▼82kg級 和久井始（自衛隊）、▼90kg級 安田紀久雄（山梨クラブ）、▼100kg級 対馬正敏（自衛隊）

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 矢作章（ユナイテッドスティール）、▼52kg級 木村剛史（自衛隊少年工科学校）、▼57kg級 黒飛健（自衛隊）、▼62kg級 大城利幸（自衛隊）、▼68kg級 大久保康裕（自衛隊）、▼74kg級 伊藤広道（自衛隊）、▼82kg級 福岡浩一（自衛隊）、▼90kg級 花城安明（自衛隊）、▼90kg以上級 近藤務（自衛隊）